

# 令和 5 年度こども園評価書

園番号 19 園名 高松こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A : よくてきている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
キラキラ輝く 元気な子	「みてみて！」 「なあに？」 ～わくわくが いっぱい～	わくわくすることをたくさん見つける	担任間で子どもの姿を振り返りながら、環境の再構成を行うことで、保育教諭自身「ここが面白い」と感じるが増えた。後期は毎日の打ち合わせで園庭環境図を使用しながら全学年の遊びの様子を伝え合う時間を設けた。道具や用具等の共有を提案したり、環境の手だてを話し合ったりすることで子ども達がわくわくする遊び環境の共通理解に繋がった	A	A	・園の雰囲気明るくなって、保育教諭が子ども達と遊んでいる様子が分かる。また、子どもも明るくのびのびと好きなことを楽しんでいる。年長児は、行事に向かって取り組む姿がやる気に満ち溢れている。協力してやること、チームワークよく進めること、優しい気持ち等を育ててもらい、成長を感じることができた	・子どもの”今、わくわくしていること、やりたいこと”を見逃さないように意識して関わり、つぶやきを書き留め子どもも理解を深めたり、環境の再構成を進めていったり、スピード感のある対応を意識していく ・子どもが保育教諭に発信してきた時、一人一人が満たされる受け止め方や具体的な言葉かけ等、関わり方を考え合う。対応力がスキルアップするように、公開保育等で保育教諭間の保育観を語り合い、学び合っていく ・保育室、園庭の環境の見直しを継続的に進めるために、他学年との子どもの姿の共有、発達理解を深めるための話し合いが必須。リーダー会議と幼児乳児会議の充実、会議の内容を園全体で共通理解していく ・保育教諭の主体性の育成。様々な年齢層の職員が互いの存在を認め合い、支え合える職場の風土の構築を図っていく
		「みてみて」と言いたくなるもの、事との出会いのきっかけを大切に	子どもそれぞれに表現の違いがあることを理解し、子どもの表情の変化や心が動いた瞬間を丁寧に捉え、個々の思いに気づくように意識して関わった。またクラス担任間で子どもの姿を肯定的に見つめ、良さを見つけて褒めていくと、子どもが生き生きとした表情で思いを表出し、主体的に生活する姿が増えていった	A	A	・乳児組は成長とともにできることが増え話すようになること、様々なことに挑戦しながら興味を広げていることが伝わってきた。「みてみて！できたよ！」「いっしょにやろう」と話す姿を見ていると、友達や保育教諭と楽しみ、わくわくしながら毎日楽しんで過ごしているからではないかと思った。これからは興味を広げて人や動植物等、いろいろな関わりを通して成長してほしいと願う	
		一人一人の子どもの思いを受け止める	保育教諭に伝えたいと示す子どもの思いを、目線や言葉等から読み取り寄り添っていった。特に乳児組は保育教諭が安心できる存在になれるように子どもの思いを受け止めていった。幼児組はクラス担任間の話し合いを増やしたことで、様々な視点で子どもを見取れるようになり、子どもの思いをより受け止められるようになっていった	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	保育者が願いをもって発達にあった環境を用意し成長を支えていく	乳児、幼児会議や公開保育における協議等で子どもの姿、遊びの様子、保育教諭の願いを話し合ったり、共有したりし、環境作りに活かすことができた。園庭環境については、意見や工夫できる点を具体的に出し合い、協力して実行に繋がった	A	A	・園生活では、家庭ではできない体験をしている。友達から刺激をもらいながら日々成長を感じる。悩んだり疑問に感じた時は、保育教諭と話すことで保護者は心が軽くなった。感謝している。	子どもの実態や遊びの様子、保育教諭の願いなど他学年と話し合う機会を増やし、共通理解と環境作りに活かすようにする。園庭環境を作った後、振り返りを行うことが少なかった為、環境の再構成や次の保育に繋がれるよう振り返りの機会を作っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	長時間保育の中で、集中して遊ぶ場と家庭的な雰囲気の中でゆったり過ごす場の遊び方を工夫する	学年間で連携を取り、気温に応じて室内やテラスを利用した活動内容にする等工夫して保育を行った。クラスの半数以上の子ども達が早番・遅番を利用して、玩具のマンネリを感じた。その為、早遅の玩具や遊び方の見直しを行い、安全に友達と楽しく過ごせる場になった	B	B	・明るく元気で優しい対応をする保育教諭が多いが、もう少し子ども達に厳しくてもよいと思う。不適切な保育を防ぐために意識されているように感じるが、怒る時があってもよい	来年度4月から始まる、登園システムの導入に応じた職員の動きや配慮を全職員で検討したい。定期的に必要な玩具の購入や古くなった玩具の処分等、入れ替えの検討を学年間や乳幼児会議で行っていききたい
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもがわくわくを見つめたり、気づいたり感じたりするための保育者の援助や環境を工夫する	子ども目線になって一緒に遊びながら、わくわくに繋がりがちな環境作りや、一人一人がわくわくを見つめたり、膨らませたりできるような関わりを考え行った。ティンカーベルの会、森の小道プロジェクトなど、園庭環境について話し合い、様々な保育教諭の意見を取り入れて園庭環境作りを行った	B	A	・お便りや毎日のボードの言葉や写真でその時の楽しそうな雰囲気を感ぜられるので、見るのが楽しみ。これからは継続してほしい	さまざまなアイデアや考え方に触れることができる語り合いの多い園内研修を継続し、話し合いの論点を絞ったり、環境作り後の子どもの姿から次につなげたりすることで学びを深めていきたい。園庭環境の話し合い、環境整備の日を設定し、わくわくを継続させるための環境作りを考え合っていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	月1回避難訓練や災害・事故、不審者対策を行い子どもが時間や場所に応じた避難がわかるように指導する	訓練後に気づきや反省を話し合い、次回の訓練や災害時はどう動くのか考えていった。避難の方法に正解はないので、その時の状況に応じて最善の避難方法を判断できるように、一人一人が率先して動けるようになっていきたい。ヒヤリハットの統計、見直すべき点をポイントを絞って作成したことで全体の共有に繋がりと、日々の保育で配慮することが出来た	B	A	・もう少し、子どもの様子を口頭で聞きたい。一日の様子を保育教諭と少しでも良いので話したい。写真やお便りによりたくさんの情報を提示してほしい	訓練後の反省は一人一人が率先して動けるように、次に繋がる改善点を意識して丁寧に行っていく。その中で細かい確認を丁寧に行い、疑問点がある場合は会議で話しあって周知していく。子ども達の遊びを禁止しなくてもいい安全な環境を見直していきたい
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食育の日を意識し、給食・おやつ、食材を紹介したり、栽培・収穫・クッキング体験をし、給食調理員との交流をしたりして食への興味を高める	畑やプランター等で野菜の栽培をし、収穫を喜びながら調理員と連携し簡単なクッキングを楽しんだ。自分達で栽培した野菜を収穫から調理、食卓まで一連して体験したことと興味深かった。また、食育集会にて調理員との交流を持つことができた。各学年の取り組みを他学年や保護者にも発信していきたい	B	B	・職員の働く環境の改善が必要。トイレが少なく、休憩をする場所も不足しているため、ほっとする場所がない。事務室が狭く事務をするスペースも限られている。早急に整えていかなくては若い職員が離れていくことに繋がるので、早急に職場環境改善を提案したい。	計画的な野菜の栽培が実施できるよう、見直しをもち早めに種や苗の発注を行う。栽培に関して育てていく過程での興味を持続が出来るような工夫や、食育の取り組みをお便りや、ドキュメンテーションを作成し他学年や保護者への発信をしていく。調理員と連携しながら、交流の機会を今後も増やしていきたい
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	月1回のピーターパン会議(ケース会議)でサポートプランの検討をし、全職員の情報共有を図る	職員会議でピーターパン会議や高松ネットワークサロンの情報を共有したことで、園全体で加配の子ども達を見ていこうとする雰囲気に繋がった。ピーターパン会議で研修の報告や手立てを検討したことで加配担当者のスキルアップに繋がっている。担当者以外にも加配の子どもの様子を知ってもらえるように工夫していきたい	B	A	・園舎が古くて、保育室も狭く、子どものいるところが無いように感じるが、限られた環境の中で職員が工夫し、努力していることが伝わってくる。職員が発地出来る場所を作っていくべき	ピーターパン会議や高松ネットワークサロンの報告を引き続き、職員会議で共有していく。ピーターパン会議では関わり方の統一や様々な支援方法を知るためにリーダーや乳児の職員にも参加できるよう工夫していく。高松ネットワークサロンもより多くの職員や保護者が参加できるよう体制作りをしていきたい
5 組織運営	(1)組織体制の充実	担当園務分掌を各自意識し、企画提案、計画に基づいた遂行、職員会議で進捗状況の報告を行う	分掌内で会計年度職員と一緒に話し合いを重ね、協力し合って行事の運営を行うことができた。しかし、進み具合や情報共有等全体への周知を行う方等の課題が残る。担当以外も周囲の動きに目を向け、見直しをもって声を掛け合っていくべき	B	A	・配慮を必要とする子ども達が、安心して自分の思いを表現し、集団の中で育っている。優しい気持ちの育ちが見られる	分掌内での話し合いを行い、今年度の反省を活かした具体的な計画を立て、どこを協力してほしいのか、次はどうしたいのか等全職員が分かるような発信を行っていく。また、現在の進捗状況も周知できるようにする。分掌だけの負担にならず、園全体で考えていけるようにしていく
6 研修	(1)研修体制の充実	研修拠点園として公開保育を行い、遊び改善構想の手だてや公開保育の視点について協議する。園内研修では、自分の意見をもって参加し発言をする。	研修方法や日程の工夫をしたことで全職員が研修に参加し、園内で保育について語り合う雰囲気ができた。パート職員や若手職員も発言し、職員同士意見を伝え合うことができ、主体的な学びの場となった。一方、協議方法については、難しさを感じるものもあり、いろいろな研修方法を探っていく必要がある。また、学びを次に繋げていけるようにする等、更に学びを深められるような工夫をしていきたい	A	A	・駐車場で子どもを見ていない保護者がいて、子どもが保護者と手を繋いでいないので急に飛び出してきたり、停車中の車の後ろから出てきたりして危険な場面があった。事故を起こすのではないかと不安である。安全に利用することを意識していけるように保護者に伝えていってほしい	引き続き全職員で語り合えるように少人数で話し合える場を積み重ねていくと共に、会議の中で報告する等、研修に出られなかった職員とも情報共有を意識していく。また、若手職員も司会を経験する、アンケートをとり後半につなげる等、全職員の研修への意識を高め、園全体で研修に取り組んでいきたい
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境の充実	「これがやりたい」という子どもの想いやこだわりに基づき、それを実現できるような教材・用具を準備したり再構成したりする	子どもの姿から何に興味があるのか、楽しんでいるのかを担当だけでなく、多くの職員で共有し、園全体で考え環境を変えていくことができた。職員一人ひとりが子どものやりたいことや興味に応えられるように豊富な教材の引き出しが持てるようにしていきたい	B	B	・地域の中の園を目指して、もっと園の方から発信していく。園の周りの資源(自然物、人等)を有効活用して、園の環境に取り込んでいけると良い	子どもの”今”を逃さないようにやってみようと思ったことをすぐ行動に移し、スピード感のある環境の再構成を行う。また、保育の手立て、環境構成のアイデアや、教材や用具等の活かし方を全職員で共有していけるような語り合いの場を作っていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	毎日ボードや連絡帳で子ども達の遊びの様子を情報発信したり、降園時子どもの様子を伝え、保護者と子どもの育ちを共有する	子どもの四季ごとの遊びの写真入りのボードを作成・掲示し、子どもの様子を具体的に伝えていった。送迎時や面談では、保護者の悩みを聞く中で、保護者とのコミュニケーションを深めていった。今後も保護者と子どもの姿を共有しながら、一緒に子育てを楽しんでいけるよう、丁寧なかかわりを継続していきたい	A	A	・小学校への働きかけは、形だけではなくて小学校の先生に園の子どもの様子を見に来てもらったり、年長組が遊びに行かせてもらったり、見て、感じるような具体的な取組を実施していく	ドキュメンテーション作成時、写真の活用を継続していく。また玄関の整頓にも気を配り、注目を引くような演出も心がけていきたい。今後導入される予定のipadについては不確定なこともあるが、保護者と繋がる有効的なツールとして活用方法を模索していきたい。参加会の実施時期については早めに設ける予定である
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣小学校に園だよりを届けたり、学校だよりを園内で回覧し学校の様子を学ぶ	宮竹小学校から1年生の授業に5歳児が招待されたり、小学校へ職員が教室の写真撮影させてもらったりと交流の機会は少しずつ増えてきているが、単発的なものだった。もう少しお互いの職員が交流を重ね、子どもたちの姿の語り合いができるようになったらと感じている	B	B		今年度内に具体的な交流計画の作成を行う。(交流のねらい及び目的、交流の内容、授業、保育参観等の計画)作成した計画を基に幼小保の職員が集まり、実践できるよう日程など細かいところを詰めていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	散歩マップに子どもが遊ぶ様子の写真を掲示し、地域に親しみをもてるようにしたり、地域の良さを伝えたりする	後期は、職員間で公園の情報を交換しながら子どもの年齢や興味に合わせて自然を見つけたり、思いきり遊んだりする園外保育を取り入れることができた。また保護者に呼びかけた情報を参考に、散歩を楽しんだ子どもの様子を写真で掲示し、散歩マップを活用していった	B	B		保護者に自然物の情報だけでなく、園周辺の情報を呼びかけ、子どもの様子を写真やコメントで散歩マップを作成していく。また保護者から得た情報で職員が園外保育につなげ、保護者も巻き込んだマップ作りを目指していく。園周辺の自然物を取り入れた環境づくりを地域の人を巻き込んで行っていく